

家庭教育学級新聞

発行 山武市教育委員会生涯学習課

山武市殿台 279-1

TEL 0475-80-1456 FAX 0475-80-1400

Email: shogaigakushu@city.sammu.lg.jp

「天使の贈り物～絶望の中で母が子どもに見出したもの～」

H22. 12. 11 (土)

講師 金澤 泰子氏

松尾中家庭教育学級 「PTA教育講演会」

今回は、松尾中学校の家庭教育学級をご紹介します。

講師には、ダウン症の娘・翔子さんを「日本一の女流書家」に育てあげた金澤泰子さんを迎え、これまでの子育てから現在の親子の生活までを伺いました。

金澤さんは、これまでテレビなどで何度も紹介され、最近では十二月二十七日に「徹子の部屋」、先月十八日には「金スマ」にも出演されました。他にも本を出版したり、新聞・雑誌にも掲載されるなど、たいへん注目されています。



熱心に耳を傾ける会場のみなさん



(裏面に続く)

努力を重ね、違う世界が見えてきた今は、平穏な日々が送れていると話す金澤さん

リレーコラム第4回

我が家の子育て

山武市立山武西小学校

教頭 加藤 正康



先日、かたづけをしていたら、十数年前に作った湯飲み茶碗が二つ出てきた。一つの湯飲み茶碗には、「まあくん、心も体も大きくなーれ」一九八八年十月と描いてあり、もう一つには「たけし君、心のやさしい人に」平成三年、十一・一と描いてあった。(写真)

この二つの湯飲み茶碗は、私が、益子で作ったものだ。その月日から考えると、長男が二才の時、二男が二才の時のものである。二人の子どもへの願は、ただただ「心の優しいたくましい人に」であった。

長男が幼稚園に入ったときの初めての運動会、トラック半周の徒競走で、私は女房からせがまれて、ビデオカメラのファインダーから、子どもの姿を追った。最後まで抜かれることはなかった。思わず「やったー」と言いながらビデオカメラを置いたら、女房が渋い顔をしていた。そうです。最初から最後まで最後だったのです。でも、長男の満足そうな顔を見たとき、「やっぱり俺の子だな」とうれしく思ったものだ。

しかし、子どもが小学校へ上がってから、自らの勤務校の行事と重なり、授業参観や運動会には、ほとんど行くことはなかった。勤務校の運動会が終え、反省会が終わってやつの家で家に着くのは深夜、それでも、一生懸命頑張ったであろう息子の寝顔を見るとほっとした。二男が中学生の時、体中痣だらけで帰ってきたことがあった。「どうしたんだ」と聞いたら、「下校途中自転車で転んだ」と言った。「だめじゃないか。しっかり運動しなさい」と一言で終わってしまった。あとから聞いた話だが、ひどいじめに遭っていたそうだ。生徒指導担当と担任と相手の保護者が詫言にきたとのこと。仕事が終わってきても、じつくり子どもと向き合うことができず、すべて女房に任せっきりになっていたところである。今振り返ると本当に申し訳ない気持ちでいっぱいである。

今から二年くらい前の話だが、私が新聞を読んでいた時のこと。長男が「お父さん、何してるの」と聞いてきた。私は「先生方に、教員の不幸事の記事を読んでもいい、気を付けてもらおうと思う」と言ったら、長男が「お父さん、



※このコーナーは、リレー形式で順次自分の子育てについて、エピソードや思うことなど気ままに書いていただく予定です。お楽しみに。

先生たちはみんな、『今日も頑張るぞ!』という気持ちで朝を迎えているでしょう。それなのに朝から『こんなことはダメですよ。』なんて言われたら、一日の出発の気持ちが出てこないでしょ!』とびっくりすることを書いてきた。私はそれ以来、健康面や生活面などいろいろな記事を先生方に紹介するようになった。

話は、少し変わるが、私の父親は現在八十二才で要介護五、母親は八十一才で要介護三で老老介護中であり近くに住んでいる。毎日ヘルパーさんにもきてもらっているが、一日中いるわけではなく、平日は女房が買い物などに出かける。土日は、私が病院へ付き添ったり、買い物に行ったりする。また、ひげを剃ったり、ご飯を食べさせたりとなかなか大変である。そんなときの父親の口癖は、「ありがたう。ありがたう」である。何かしてやらうと必ず言うのである。その言葉を聞くだけで、大変だと思ったことが申し訳ないと思えてくる。俺をここまで育ててくれた父親への恩返しだと思えば、「ありがたう」なんて言葉すら言いづらいはずなのに・・・

先日、二男が、アメリカへ行く前に、私と一緒に父親のところへ行った。服を着せたり、車いすを押したりと普段私がやっていたことを二男がやっていた。後から女房に聞いた話だが、二男が父親に「おじいちゃん、アメリカへ行ってくるね。おじいちゃんのおかげだよ。」といったそう。別に留学費など助けてもらってはいなかったが、誕生日やお正月などに父親からももらった貯金も留学の資金源になったと言ったこともない。その言葉を聞いた父親が、「誰のおかげでもない、全部自分が頑張ったのおかげだよ」と言って応援してくれたそうである。

そんな二人も、二十三才と二十一才になった。二人がここまで育つのにいろいろあった。二人が二歳と一歳の時に、二人の高校生が殴り合いの兄弟喧嘩をして家族で泣いたこと。少年野球に二年間在籍しながら、家族で応援に行った公式試合に一度も出ることもなかった長男。夜中の公園で、親子で百メートルの全力走をしたことなど。その一つ一つが子どもを磨き、そして、親をも成長させた。

今思うと、本当に子どもに助けられてきたと実感する。親として、もつとすべきことがあった。子どもとの対話の時間をもつと作るべきであったと思う。もつともつと子どもの視点に立って、話を聞いてあげられれば良かったと思う。でも、まだ遅いとは思っていない。まだまだこれからである。先日、長男と二人でカラオケに行った。俺は「黒沢年男のやすらぎ」を歌い、長男は「ミスターチルドレンのシーソーゲーム」を歌った。演歌とニューミュージックのリレー二時間持ったのである。

これからは息子たちについてはいくつかわたていきたい。子育てと言うよりは、家族で楽しい時間をもつと過ごせればと思う昨今である。

翔子さんがおなかにいるとき、日本一の子にしようと思っていた金澤さん。ダウン症で生まれたわが子に希望がないと絶望したそうです。

そのようななかからここまで育てた経験から出るお話しには、多くの学ぶべき点がありました。

- ◆ いいことも悪いこともみんなに同じだけ起こるのだから障がいがあってもそれだけで嘆くなかれ・・・必要ない存在はいない
- ◆ 泣きながら育てないで、いいところを見て育て
- ◆ 自立のために料理・掃除など過保護にせずやらせる
- ◆ ご自身は受験時代のがんばりで一生の自信ができたそうです。その自信で翔子さんを育てられたのですね



にこやかに語る金澤さん

この講演会は、これまでのバス研修を今年から教育講演会に変更して実施されました。保護者のみなさまの意識の高さが感じられます。講師の金澤さんが旧松尾町の出身だったご縁で、忙しいなかおいでいただきました。また、松尾地区の小中学校にもご案内したため、広い中学校の体育館に多くのみなさまが出席されました。今後テレビなどに出演することもあると思いますので、ぜひご覧ください。



平成22年度第2回家庭教育学級講演会報告

今年度の第2回講演会が、去る1月13日(木)午前10時からぎくプラザで開催され、150名を超える皆さまの参加がありました。

講師は、現在千葉市の日下医院でケースワーカーをしている日下弘美先生でした。医院で使用しているトレーニングシートを配布して、「子どもに対して穏やかに尊重して思いやりを持って接しましょう、自分のできることをていねいに誠実に一日一日を過ごしましょう」とお話されました。

日下先生の話のポイント

■ 「～しちゃダメ」って言っていないですか？

そう言っていると何もしないのが一番よいことになり何もできなくなってしまうので、悪いことを指摘して直させてもいい子にならない。

いいところを見つけて褒めてあげ、直したいことは、おだやかな感情でいるときに話すようにする。怒って言っても聞いていない、叱るときは落ち着いて。

■ 「自分のことは自分でやれ」って言っていないですか？

何でも一人でやらなければならないのではなくて、できない時は助けを求めていいんだよという気持ちを込めて「自分でできることは自分でやってね。自分でできないことがあったら相談してね」と言う。

■ ちょっと気をつけて

家でお酒を飲むとき、泡だけだからと軽い気持ちで子どもに舐めさせたりしたことはありませんか？これだけでも子どもの脳が快楽物質を覚えてしまい、大人になった時に理性より快楽が勝ってしまい、アルコール依存になりやすいそうです。

けんか・無関心・酒飲み・支配的・・・こういう両親だと子どもは安心感を得られない



今日一日は「肯定的な感情」で過ごそうという気持ちで一日一日を過ごしましょうと話す日下先生

決 定 !

平成23年度 家庭教育学級合同開級式講演会

日時 平成23年5月26日(木)午前10時から12時
場所 山武市成東文化会館のぎくプラザホール
講師 池口 紀夫 先生(中核地域生活支援センター夷隅ひなた所長)
内容 子どもの成長過程における親の関わり方

新年度合同開級式講演会の講師にお願いした池口先生は、長年「児童自立支援施設」の教員として非行少年と向き合い、その後幼児通園施設長として障がい児とその保護者の支援をされてきました。そのような経験から、子どもの成長過程それぞれの時期における親の関わり方の大切さについてお話いただく予定です。

はっとして自分の子育てを見直すきっかけになる内容ですので、お楽しみに。

入場無料



ぜひ、ご出席
ください!

春一番も吹き、ようやく春が近いことを感じられるようになってきました。

卒業式が終わると、まもなく新しい学年が始まります。保護者の皆さまにとっては、わが子がまた一つ階段を上がって成長していくのを感じられる時期ではないでしょうか。子どもたちは毎年それぞれが新しい出会いと経験を得て大きく育っていきます。

新しい学年を迎えるために家庭では生活リズムを見直し、外で思いっきり能力を発揮できるように心がけていただければと思います。またこの時期、家庭内が子どもたちが安心できるやすらぎの場所になっているかを振り返ってみてはいかがでしょうか。

新学期を張り切って迎える子どもたちが一年間元気に過ごすことができるように、環境を整えることも大事なことです。

この新聞で取り上げた記事にも子育てのヒントがたくさんありますので、参考にいただければうれしいです。



担当 加瀬